

日 本 神 経 化 学 会

2021年度第2回理事会議事録

日時：2021年9月29日（水） 13：00-16：30

会場：Zoom会議

出席 (TV)	執行部) 岡野栄之(理事長), 竹居光太郎(副理事長), 照沼美穂(庶務担当), 村松里衣子(会計担当), 等 誠司(出版・広報担当) 理 事) 味岡逸樹(国際対応委員会委員長), 荒木敏之, 今泉和則(研究助成金等候補者選考委員会委員長), 小野賢二郎(倫理委員会委員長), 竹林浩秀, 田中謙二(将来計画委員会委員長), 堀修(利益相反委員会委員長), 牧之段学(シンポジウム企画委員会委員長), 望月秀樹(臨床連携委員会委員長) 和中明生(第64回大会長) 以上50音順 委員長等) 小泉修一(法人化推進委員会委員長), 澤本和延(優秀賞・奨励賞選考委員会委員長(2021年10月から), 林(高木)朗子(脳研究推進委員会委員会委員長), 尾藤晴彦(連合大会・多分野交流委員会委員長) 以上50音順
欠席	監 事) 田代朋子、遠山正彌 以上50音順
委任状	無し

新体制となり初の理事会となるため、開会に先立ち、理事長、理事、委員長および事務局より自己紹介・挨拶を行った。

議 題

【報告事項】

1. 2021年度第1回理事会議事録承認について

岡野栄之理事長より、先般持ち回り審査を行い、承認が得られている旨報告があった。

2. 理事長報告

岡野栄之理事長より、当会運営について、以下の通り報告があった。

- ・今回から理事長と大会長よりメッセージとして大会毎に「〇〇宣言」を出していきたい。今回は「奈良宣言」として和中先生と連名で発出する。内容について承認された。

3. 庶務報告

照沼美穂庶務担当理事より、以下の通り報告があった。

◆会員状況について

会員数動向としては、学生・若手の新規入会者により微増した。

岡野理事長より、この学生会員が今後も会に残ってもらえるよう魅力ある会となるよう努力をしていくこととした。

◆評議員・団体会員の退会について

退会希望評議員3人へ慰留をしたところ、1名功労会員、1名シニア会員、1名退会となった。団体会員の日本大学図書館医学部分館より退会希望があり、退会処理を行った。機関誌をオープンアクセスジャーナルとしたことにより冊子不要とのことで、やむなしとして承認された。また同様の理由にて、鶴見大学図書館と新潟大学付属図書館の12月末退会が確定している。

4. 会計報告

村松里衣子会計担当理事より、以下の通り報告があった。

◆2021年度中間決算について

当会の会計年度は1月～12月であるため、6月末までの会計状況を中間決算として報告。収入は年会費の徴収が芳しくないため引き続き徴収に努める。支出は、今年度も会議体がwebになったため、旅費交通費・会議費が大幅に抑えられた。

◆年会費未納者数について

本年度中に未納が解消されない2018年からの長期未納者については、本年度末付で除名処理となる為、引き続き納入喚起を行うこととした。お知り合いの方がいらっしゃる場合は、先生方からもコンタクトいただきたい。

5. 出版・広報報告

等誠司出版・広報担当理事より、以下の通り報告があった。

◆機関誌「神経化学」について

Vol. 60 No. 1 は通常記事の他、私と神経化学も掲載。

Vol. 60 No. 2 は2021年12月末発刊予定。10月20日頃入稿締切。

◆その他活動

委員長だよりも順次依頼予定。順番は、第1陣) 等先生・村松先生、第2陣) 牧之段先生・林先生・小野先生、第3陣) 小泉先生・今泉先生・尾藤先生・澤本先生・堀先生、その後) 留任の先生方に依頼予定。

6. 委員会報告

(1) 将来計画委員会

田中謙二委員長より、以下の通り報告があった。

脳科連の将来構想委員会にて、今後日本でどのような脳科学研究を推進すべきかについて話あった。本会の特色を活かして産学連携における治療的な試みを議論していくべき。これまで若手育成に注力してきたが、今後は若手セミナーを終えた世代をエンカレッジする取組を作っていくたい。

岡野理事長より、企業との連携について脳科連を介するか直接組むかの戦略について、今後議論をしてほしいとのコメントがあった。

尾藤委員長より、今後の脳外科との連携につきコメントがあった。林(高木)委員長より、フラグシッププロジェクトについて複数委員会合同で進めたいとのコメントがあった。

(2) 出版・広報委員会

等誠司委員長より、以下の通り報告があった。

- ・「神経化学トピックス」5件掲載。今後は機関誌への掲載も検討している。
- ・「特別寄稿：私と神経化学」4件掲載。
- ・「理事長挨拶」、「委員長だより」6件掲載。
- ・Facebookや他のSNSについても随時更新。

ホームページに未掲載の「神経化学」のバックナンバーのPDF化について検討することとなった。

今後ホームページのリニューアルも検討することとなった。

(3) シンポジウム企画委員会

牧之段学委員長より、以下の通り報告があった。

2022年沖縄大会での理事会企画シンポジウムについて、テーマを「エクソソームと神経化学、がんから神経へ」として演者を決定した。エクソソーム、がん研究と神経化学との今後の連携を深めていきたい。

(4) 国際対応委員会

味岡逸樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・ ISN-APSN オンラインスクール：2021年に好評だったため、2022年に第2回、第3回を開催予定。たくさんの学生・ポストクの参加をお待ちしてる。
- ・ Neurochemical Research誌の特集号：積極的な投稿にご協力をいただきたい。締切は2021年11月30日。
- ・ 2021年12月APSN大会（オンライン）：2021年12月13、14日にオンライン開催。
- ・ 2021年12月APSNスクール（オンライン）：2021年12月9、10日にオンライン開催。
- ・ 2021年ISN/APSN大会（京都）：ISN理事と執行部 web 会議により、2022年8月28日～9月1日にオンライン開催を前提に準備を進めることを確認。
- ・ 2022年8月 ISN アドバンスドスクール（京都）：2022年8月23日～27日にオンライン開催で調整中。
- ・ 日本神経化学会トラベルアワード（日本→海外）および鍋島トラベルアワード（海外→日本）はどちらも募集なし。
- ・ 9月14日に委員会開催。若手道場で活躍した人にISN/APSNに参加いただけるよう声掛けをして本会の若手研究者の国際活動をサポートしたい。

岡野理事長より、若手道場に英語セクションを設けるなどはどうかとのコメントがあり、照沼委員長にて具体的検討をしていくことになった。

(5) 研究助成金等候補者選考委員会

今泉和則委員長より、以下の通り報告があった。

- ・ 2021年4月から2021年9月における学会推薦公募案件について
公募案件は10件あったが、応募、推薦とも無し。なお、学会より推薦した候補者については、事前に理事へメールにて報告している。
- ・ 2021年4月から2021年9月までの推薦後の選考結果について
採択なし

岡野理事長より、猿橋賞についてぜひ本会から推薦いただきたいとのコメントがあり、今泉委員長にて締切までに推薦を進めることとなった。

(6) 脳研究推進委員会

林（高木）朗子委員長より、以下の通り報告があった。

理事会に先立ち、8月1～3日に委員会、メール審議。以下のイベントの企画・参画が提案された。

(1) 2023 年大会での企画

(1-1) シンポジウム：量子力学などの物理系、AI などの情報系、化学、日本ブレインバ

ンクネット、創薬など。

(1-2) 製薬とのマッチングイベント

(1-3) With/Post コロナを見据えた小規模なオンサイトの成果発表会

(2) 既に企画が進行しているイベントに共催で参画し、日本神経化学会会員へ公開する。

(2-1) 次世代脳への参画（新学術領域・マルチスケール脳が主催「基礎神経科学と臨床精神が融合したブレークスルー研究の育て方」ワークショップ

(2-2) 地域精神保健福祉機構（COMHBO）リカバリー全国フォーラム 2021 への参加)

(2) の 2 企画について、日本神経化学会が共催し、希望する会員の参画に関して、審議され、承認された。

(1) についての、将来計画委員会、シンポジウム企画委員会、連合大会・多分野交流委員会、若手育成委員会との連携について、審議され、承認された。

今後、各種イベントについて、本会メーリスを活用し会員へ告知していくこととなった。

(7) 優秀賞・奨励賞選考委員会

等誠司委員長より、以下の通り報告があった。

・2021年度優秀賞・奨励賞結果について

優秀賞は応募 3 件、受賞 1 件。奨励賞は応募 2 件、受賞 2 件という結果となった。総会後に授賞式開催予定。

岡野理事長より受賞者を若手組織化して活躍してもらうような形を作っていたきたい。優秀賞奨励賞受賞者には機関誌への寄稿いただいております、優秀賞受賞者は評議員に推薦、翌年のシンポジウム開催があるが、それ以上の仕組みがない。照沼理事を中心に、執行部で次回理事会までに検討する。

(8) 連合大会・多分野交流委員会

尾藤晴彦委員長より、以下の通り報告があった。

- ・2024年の第67回大会は、小泉修一大会長の下、特にグリアというテーマにフォーカスを当てるため、日本神経科学学会ならびに日本生物学的精神医学会との合同大会の方向である。
- ・その後の連合 / 単独開催については、2025年をどうするか、委員長を誰にするか含め次回理事会までに検討することとなった。

和中理事より、合同大会 Neuro には良い点ばかりではなく、マイナスの側面もあるので、開催頻度を上げることについては慎重に検討すべき部分もあるとのコメントがあった。

岡野理事長より、合同大会は、デメリットもあるが、本会の魅力を他へ見せる場でもあるので、科学以外の他の学会との合同も検討していきたい。

2024年の第67回大会（日本神経科学学会、日本生物学的精神医学会との合同大会）を Neuro としての開催することについて、Neuro の開催は慣例として 3 年おきであったが、今回イレギュラーに 2 年となるが、審議の結果、承認された。

(9) 利益相反委員会

堀修委員長より、特段の報告事項は無いとした。

岡野理事長より、法人化後の COI の取得範囲について、法人化推進委員会と確認するよう指示があった。（現行は委員会委員長まで。法人化後は委員会委員からも取得予定）

(10) ダイバーシティ推進委員会

村松里衣子委員長より、以下の通り報告があった。

- ・男女共同参画学協会連絡会の調査への協力と連絡会へのオブザーバ参加を実施。
- ・Neuro2022のダイバーシティ担当の東田先生と連絡し、ダイバーシティ企画の演者の選定をこれから進めていく。

(11) 臨床連携委員会

望月秀樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・神経学会（5月）学会横断シンポジウム実施。
- ・精神神経学会（9月）にて、神経化学のシンポジウム実施。コロナ禍でオンサイト開催、満員で大変盛況であった。
- ・2023年合同大会の、神経病理学会側の大会長は望月委員長。臨床の先生方に多く参加いただけるよう注力していく。
- ・脳外科学との連携が現状できていないため、声掛けをしていきたい。
- ・臨床では働き方改革により研究活動に避ける時間が減っている現状。上から、研究や学会活動への参加を促すこともNGと見做されるような状況となっている。

(12) 倫理委員会

小野賢二郎委員長より特段の報告事項は無いとした。

岡野理事長より研究課題の倫理についても今後、適宜、検討いただきたいとのコメントがあった。

(13) 若手育成委員会

照沼美穂委員長より、以下の通り報告があった。

- ・若手道場は、単独大会では持ち時間を25分（発表10分、質疑応答15分）＋フィードバックであるが、Neuroでは、持ち時間を20分（発表10分、質疑応答10分）のみであるため、何らかの形でフィードバックをする方法を検討する。審査用紙に記入して渡すなど。
- ・若手道場は、化学会のものであることをNeuroでも全面的に出していきたい。
- ・若手セミナーの寄付について
寄付金については寄付者より本会の学生のみを使ってほしいとの要望があり、使途報告も求められている。他会からの参加者については、学会から一定の費用負担をいただくなど差別化をしていただきたい。

(14) 法人化推進委員会

審議事項9にて審議とした。

7. 脳科学関連学会連合について

岡野理事長より、脳科連で、産学連携をどういう形でやるか議論している。個別ではなくプラットフォームを作って動く方向で議論している。本会としては、大がかりになるとスピード感が無く、個別の学会の特色も活かさないのではという意見もあった。

8. 生物科学学会連合について

竹居副理事長より、以下報告があった。

- ・ライフサイエンスにおけるポストクの問題の改善があった。生科連からの提言の成果かどうか

不明だが、引き続きより効果的な提言をしていくことが重要。

- ・生物学の用語の整理に着手している。学術会議の用語と入試用の用語の整理が膨大な作業なため、手伝い募集中。高校の生物における神経の扱い向上に貢献したい。（現行、生物ではヒトは扱わず、ヒトは保健体育になっている）

9. 男女共同参画学協会連絡会について

報告事項6-(10)にて報告とした。

10. 第 64 回大会（2021 年度）について

和中明生大会長より、以下の通り報告があった。

〈第64回（2021 年度）大会〉

会期：2021年 9月30日（木）～10月 1日（金） 2日間

Web 上での開催

- ・紆余曲折の中、やっと明日からの開催にたどり着いた。
- ・今回新たな試みとして高校生からの参加を募った。奈良県、神奈川県のスーパースサイエンスハイスクール、大分県のフリースクールから参加がある予定。
- ・学会によっては「ジュニア会員制度」があるため、本会でも今後検討いただきたい。（学校単位でウェビナーにのみ参加可能とするなど）

11. 第 65 回大会（2022 年度 / Neuro2022）について

竹居光太郎大会長より、以下の通り報告があった。

〈第65回（2022 年度）大会〉（Neuro 2022合同大会）

会期：2022年 6月30日（木）～7月 3日（日） 4日間

場所：沖縄本島 宜野湾（ぎのわん）コンベンションエリア

- ・3年ぶりの Neuro で、日本神経科学学会、日本神経回路学会との3学会合同となる。基本的にはオンサイトであるが、沖縄と遠方であるため、参加者はハイブリッド参加可とする。
- ・公募シンポジウム応募が9月30日締切。
- ・大会企画シンポジウム予定者と教育講演予定者が重複しているため、調整要。

12. 第 66 回大会（2023 年度）について

今泉和則大会長より、以下の通り報告があった。

〈第66回（2023 年度）大会〉（日本神経病理学会との合同大会）

会期：2023年 7月 6日（木）～8日（土） 3日間

場所：神戸国際会議場（懇親会：ポートピアホテル）

- ・運営事務局はコンベンションリンクージュに決定。
- ・日本神経病理学会の大会長は望月秀樹先生。

竹居光太郎大会長より、本会で企画するシンポジウムの枠について、各大会で漏れが発生することの無いよう、今後は一覧を作成し、大会長へ次々に引き継いでいくようにするとのこと。

13. 第 67 回大会（2024 年度）について

小泉修一大会長より、以下の通り報告があった。

〈第67回（2024 年度）大会〉（Neuro 2024合同大会予定）

場所、日程はこれから決めていく予定。

14. その他：無し

【審議事項】

1. 名誉会員の推薦について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、3月理事会で決定のとおり、2名について総会への推薦が承認された。

来年度の候補については名簿をご確認いただき、12月末までに候補を挙げていただきたい。

等理事より、退職後に連絡の取れなくなる方が多いため、対応を検討いただきたいとのコメントがあった。事務局より、タイミングを見て登録情報の変更伺いを検討するとした。

2. 功労会員の推薦について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、審議の結果、2名について総会への推薦が承認された。

3. 新評議員の推薦について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、審議の結果、1名について総会への推薦が承認された。

4. 次期評議員の継続について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、審議の結果、継続意思の231名について総会への推薦が承認された。

5. 評議員の退任について

照沼美穂庶務担当理事より、退任希望10名、連絡不通9名が退任予定との報告があった。審議の結果、退任希望のうち70歳未満の8名については慰留を試みることになった。連絡不通について先生方で連絡先をご存知の場合は事務局または照沼理事へ連絡いただくこととなった。最終的に慰留できなかった場合は、正会員へ属性変更となる。

6. 2022年度予算について

村松里衣子会計担当理事より、2022年度予算について報告があり、承認された。

・2022年度一般会計予算について

収入の部では昨年に続き賛助会費や広告収入を努力目標と設定している。支出の部では、過去実績から節減を念頭に作成するも運営状況は厳しいとの予想。出張旅費については、コロナ収束後を見据え計上している。

法人化の司法書士費用などは、特別会計から支出する（前回理事会にて承認済の通り）。

7. 優秀賞・奨励賞選考委員について

等誠司委員長より、委員会で決定した内規改訂について報告があり、承認された。

改訂前：「委員の互選により委員長を選出し、理事長がこれを委嘱する」

改訂後：「理事長の指名により新委員および委員長を選任し、理事会にて承認する」

改訂後の内規に従い、岡野理事長により、2021年10月からの委員長及び、新委員が以下のとおり選任され、承認された。

委員長：澤本和延

新委員：久保健一郎（東京慈恵会医科大学）、永井拓（藤田医科大学）

8. 脳研究推進委員会活動について
報告事項 6-(6) にて審議とした。

9. 法人化について

小泉修一委員長より、今後の実施スケジュール、必要な会議体、準備いただきたいことについて説明があった。現在の任意団体から新法人へ会員および財産を移転することについて、総会へ諮ることにつき、承認された。

10. その他

事務局より、現在実施している学生会員および若手会員の初年度年会費無料は来年度以降も継続でよいかの確認があり、継続として承認された。

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、本年度第2回理事会を閉じた。